



1年工業技術基礎(鑄造・塑性パート)



1年工業技術基礎(仕上げ・溶接パート)

コラム

ガス溶接は、アセチレンやLPGなどの可燃性ガスと酸素を用いて、2つ以上の金属を溶かして接合する溶接作業の一種です。自動車の修理など、さまざまな用途で使用されている汎用性の高い溶接です。また、ガスを用いて溶断作業にも使用することができ、こちらは「ガス切断」と呼ばれています。仕組みとしては、基本的に2つの素材を溶かして、その間に強力な結合を作り出すことです。接合する2つの部品は、可燃性ガスと酸素を組み合わせたものを燃焼室に噴射するトーチと呼ばれる道具を使って加熱します。加熱された可燃性ガスと酸素から熱が発生し、その熱で金属を溶かして結合させます。



ガス溶接

《順調な時ほど危機が訪れる》

日清食品 安藤百福

1年次の工業技術基礎は機械科の基礎となる実習が中心です。4パートに分かれ実習を行います。鑄造パートは加熱炉で鉄を熱し叩いて曲げる作業を行い、溶接パートは3000℃の熱で鉄板を溶接します。この時期は気温も高く、サウナ状態での実習になります(苦笑)。大変ですが、会社に入れば環境の良い職場ばかりではありません。生徒はこの経験を将来に結びつけてほしいと思います。本物のサウナのように整いたいです(笑)。